

# 宮ノ陣ビオトープ新聞

第 6 号

(2019年2月)

宮ノ陣学びのビオトープ

2016年9月創刊 季刊

宮ノ陣学びのビオトープから生き物や季節の情報をお伝えし、豊かな久留米市の将来へのライフスタイルを提案する新聞。

発行

くるめハイトラスト株式会社  
久留米市宮ノ陣町八丁島 2225 番地  
〒839-0805 TEL0942-27-7515  
協力 株式会社エコプラン研究所

## 池干し講座の概要

**タイトル** 宮ノ陣学びのビオトープ市民講座「池干し大作戦(二〇一八冬)」

**サブタイトル** 池の生き物が楽しくくらするための大掃除

**趣旨** 親子を対象に、宮ノ陣学びのビオトープで魚や底生動物など水辺の生き物が生息できるようにするための環境整備(池干し)を行うもの

**日にち** 十二月九日(日)曇り、気温低く寒い

**時間** 十三時三十分～十六時

**会場** 宮ノ陣クリーンセンター(久留米市宮ノ陣八丁島)  
「講話」環境交流プラザ 大会議室

**「活動」**宮ノ陣学びのビオトープ

**内容** 一・宮ノ陣学びのビオトープの水抜きした池から魚や底生動物を救出  
二・救出した生き物の観察と解説

### 池干し大作戦！ お宝生き物が たくさん住んでいた！

宮ノ陣学びのビオトープでは、池内に生息できる生き物がくらする環境を整えるために、様々なテーマで学習や実践活動を行ってきました。十二月九日(日)、池の水質改善と生息する生き物の調査のため、初めて「池干し」を行いました。救出した池の生き物は、十一種類にも上り、その中には絶滅が危惧される貴重な生き物も生息していることがわかりました。

### すごいよ！たくさんいるよ！



池に暮らしている生き物を救出

三・救出した生き物を仮設の生息エリアに放流  
**対象** 小学一年生～六年生と保護者(未就学児の兄弟姉妹の参加は可)  
**参加** 先着十三組 四十二名(大人十七名、子ども二十五名)  
**費用** 無料  
**主催** くるめハイトラスト株式会社  
**後援** 久留米市



池から救出した生き物を受講生が種類ごとに仕分けする

ビオトープの池に暮らしている魚やエビは、二〇一六年の講座において捕獲し放流したものが繁殖したのですが、池の中にいる昆虫は、ビオトープ池の完成後に外から飛んでくるなどして入ってきたものと考えられます。中でもコガタノゲンゴロウ「絶滅危惧Ⅱ類(福岡県、環境省)」やウスイロシマゲンゴロウ「準絶滅危惧(福岡県)」など数が少なくなつた生き物も複数暮らしており、受講生にとつては、そのような生き物が見られる貴重な機会になりました。



ビオトープ池に暮らしているコガタノゲンゴロウ

寒い時期の開催で、なおかつ初めての内容のイベントということもあり、応募があるか心配しましたが、心配をよそに、定員をはるかに超える応募がありました。

池干し当日、前日までの陽気と異なり、気温は約七度と低く、屋外での活動には厳しい気候となりました。暖かい時期に実施すればいいのに、との意見もあるのですが、一般的には魚類の繁殖時期や植物が繁茂する時期、降雨の多い時期を避けて行います。よつて冬季に実施することが望ましいとされています。宮ノ陣学びのビオトープ(以下、ビオトープ)では、池の完成から約三年を経て、魚やエビ、池の底に暮らしている昆虫の幼虫などがもっと増えたり、さらに快適に暮らせたりできるようにするため、池の水質の改善と、繁茂する水草や藻類、底に溜まった泥や外来種を駆除することなどを目的とした池干しをすることにしました。

### ため池は重要な場所

「池干し」とは、元々は農業用のため池を管理するための方法の一つで、農閑期(冬が多い)に、池の水を全部、あるいは一部を抜くことです。ため池は、農業用の水源確保のために造られ、田畑に水を供給するだけでなく、かつては、魚やエビなどを放流し、食料確保の機能も有するなど生活にとつてかけがえのないものでしたが、時代が移り変わり、ため池の機能の重要性が薄れ、水質が悪化するなど、迷惑施設と見られることもあります。

環境問題の改善の必要性が認識されるようになった現在、ため池は、元々地域に生息していた魚をはじめとする多くの生き物にとつて、生息しやすい環境であり、これらの種の保存や復元の貴重な場所として守っていきたい場所の一つです。

宮ノ陣学びのビオトープは、小さい池でも色んな種類の生き物が暮らしていることがわかりました。これからも暮らし続けられるように、もっと種類が増えるように、みんなで考えながら、守る活動をしていきます。

初めて見たよゲンゴロウ

講座においては、池の生き物はスタンプが網を使って救出して水の入った大きなプラスチック製ケースに入れ、それを受講生に種類ごとに仕分けしてもらいました。ツチフキとモツゴなど最初は区別がつきにくい魚も少しずつ見分けられるようになり、後半にはすっかり詳しくなりました。また、トンボの仲間でも水中にいるヤゴは姿が全く異なること、池にもエビの仲間がいることなど受講した児童には初めて見たり聞いたりすることがたくさんありました。なかでもコガタノゲンゴロウとウスイロシマゲンゴロウといったゲンゴロウの仲間は、田んぼやため池の減少などによりすっかり少なくなりましたが、ビオトープ池に人が放流しなくてもたくさん暮らしており、生き物にとつて大切な生息場所になっていることがわかりました。この環境をみんなで守りましょう。

池干しするとこんないいことがあるんだ！

池干しすることで主に次のような効果があります。

- ① 生態系の保全  
外来種を駆除したり、水草や藻を管理したりすることで水質がきれいになり、生き物も暮らしやすい場所になります。
- ② 希少種の保護  
魚やトンボなどの希少種の重要な生息場所になります。
- ③ 環境学習  
自然環境に直接触れる貴重な体験ができ、自然の大切さを、身をもって学べます。
- ④ 地域交流  
参加者が協力しながら行うことで世代を超えた交流ができ、家族や仲間の共有の体験の思い出を作ることができます。

ビオトープでの活動を通して自然や池干しの多くの効果をみんなで共有したいと思います。



[アフター]池の水抜き後



[ビフォー]池の水抜き前

池干しの手順

受講生が体験したのは、池干しの工程のうちの一部で、準備や事後の作業が大切です。おもな手順は左表の通りです。

表 池干しの手順

事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>【2日前】排水設備の作動確認</li> <li>【1日前】電動ポンプで池の水を排水(約5割)、水草取り</li> </ul>
当日(十二月九日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>【準備1】電動ポンプで池の水を排水(約8割)</li> <li>【準備2】仮設の生物生息ゾーンを設置</li> <li>【準備3】水草、アオミドロ取り</li> <li>【講座活動1】池の生物を救出</li> <li>【講座活動2】救出した生物を種類ごとに仕分け</li> <li>【講座活動3】生物の解説</li> <li>【講座活動4】生物を仮設生息ゾーンに放流</li> </ul>
事後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨水など適宜排水し、池底に日光を照射</li> <li>・12月27日にヘドロ除去、池の水を復旧(生物も元の棲家へ)</li> </ul>

表 池干しで確認した主な生物

分類	種名	数量	備考
魚	ツチフキ	約40	2016年10月放流種、準絶滅危惧(福岡県)、絶滅危惧IB類(環境省) 
	モツゴ	約60	2016年10月放流種
	ミナミメダカ	500以上	2016年10月放流種、準絶滅危惧(福岡県)、絶滅危惧II類(環境省)
底生動物	ミナミヌマエビ	1,000以上	
	ヤゴ(ギンヤンマ)	約10	
	ヤゴ(オオヤマトンボ)	2	
	ヤゴ(シオカラトンボ)	約20	
	コガタノゲンゴロウ	約50	絶滅危惧II類(福岡県)、絶滅危惧II類(環境省)
	ウスイロシマゲンゴロウ	5	準絶滅危惧(福岡県)
備考	ヒメミズカマキリ	約10	(大分県などでは都道府県別レッドデータブックに掲載されている) ※左「生き物図鑑」参照
	ヒメガムシ	約20	
備考	外来種はオオカナダモ(水草)		

ヒメミズカマキリ

- カメムシ目タイコウチ科の昆虫
- 卵から成虫まで水中で過ごす
- 冬は水中で越冬する
- 体長は20~30mmくらい(ミズカマキリより小さい)
- 水中の植物につかまって待ち伏せ、水表面付近にいるアメンボなどを食べる
- ヒシなどの浮葉植物の組織内に産卵する



「宮ノ陣ビオトープ」に生育する木や草、生息する魚、昆虫、鳥や季節の情報をお伝えします。第6回は、「ヒメミズカマキリ」です。

【宮ノ陣学びのビオトープ ご利用案内】

住所 〒839-0805 久留米市宮ノ陣町八丁島 2225番  
 開園時間 9:30~16:30  
 休園日 毎週水曜日(休日の場合は翌日)、12月29日~1月3日  
 アクセス 車/国道322号沿い、駐車場有り  
 電車/西鉄古賀茶屋駅から徒歩約15分  
 問合せ くるめハイトラスト株式会社  
 TEL/0942-27-7515  
 FAX/0942-27-7491

